Intertek Certification Japan Limited

Intertek News

Intertek
Valued Quality. Delivered.

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

Vol.53（2016年7月発行）

ISO9001:2015とリスクについて

QMS 認証部 スキームマネージャー補佐　堤（つつみ） 倫礼（とものり）

本原稿執筆中に、熊本、大分にて大きな被害をもたらす、大規模な地震が発生しました。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

改めてこの国で仕事、生活を営んで行く上で、自然災害は避けることの出来ない一つのリスクであることを痛感いたします。

皆様が移行のご準備をされているISO9001:2015年版では“リスクに基づく考え方”が追加されています。2008年版での予防処置の役割がさらに強化されたと考えていいでしょう。規格では、“6.計画”の中に“6.1リスク及び機会への取り組み”として取り上げられています。規格（6.1.1）には、4.1「組織の内部及び外部の状況」及び4.2「利害関係者の要求事項」を考慮し、次の事項a)～d)のために取り組む必要のある「リスク及び機会」を特定し取り組むこととあります。

a)品質マネジメントシステムが、その意図した結果を達成できるという確信を与える。
b)望ましい影響を増大する。
c)望ましくない影響を防止又は低減する。
d)改善を達成する。

一つの考え方として、貴社の内部外部の事業環境及びお取引先、仕入先、監督官庁の要求を考慮されたうえで、a)組織の意図した結果を達成するために、b)「機会」を増大させるために、c)「リスク」は防止し軽減させるために、そして、d)改善を達成するために取り組む必要のある、「リスク及び機会」を決定する必要があります。

地震などの自然災害の発生時に貴社の「リスク」は何でしょう。“目標を達成”するために、“防止又は低減”するために必要な取り組みとはどんなことがあるでしょうか。ご留意いただきたいのは、取り上げたリスクすべてに取り組みを要求しているかといえば、規格にはどこにもそこまでの要求はありません。つまりは、正式なリスクマネジメントまでは要求していないと考えられます。そういう意味では、組織の皆様に集まっていただき、正式な会議ではなくとも現場での打合せレベルで、組織に関する“リスク”を皆さんで次々と出し合われてはいかがでしょうか。そして、そのリスクを考慮されたうえで、品質目標を設定してください。私たちは審査において、貴社が定められた目標に対して、リスクをどう折り込み、その計画に対する実行の結果のパフォーマンスの状況を確認いたします。

最後に、私共はお客様のパフォーマンスをあげる一助になれることを意識し、日々の審査業務を行っております。今回の規格改訂における追加の要求事項が皆様のパフォーマンスをより上げていく要求事項と考えております。

CONTENTS

01 ISO9001:2015とリスクについて
02 特集
03 2015年版『リスク及び機会』に関する一考察
－「リスク及び機会」に関する一考察
－移行審査申請手続きについて
04 News & Topics
－中田製作所様「中小企業庁長官賞」受賞
－ISO22301事業継続マネジメントシステム（BCMS）の認証サービス
－ISO45001の発行遅延
－現地レポート
・熊本地震から2ヶ月
・高木包装様 救援物資をお届け
05 審査の現場から
－お客様紹介
（平戸梱包運送株式会社・株式会社ヒカリ引越センター）
－連載よみもの
「審査員の心理」（環境編）
06 連載よみもの
－審査員リレーエッセイ
「『爆買い』に思うこと」
（審査員　筒井 清美）
－環境とISO14001
「ESG投資の動向」
07 お客様からのお便り
－「国内最大規模を誇る亜鉛製錬所」
（秋田製錬株式会社）
－「小豆島から世界に」
（かどや製油株式会社 小豆島工場）
08 研修コースのご案内
－Informartion
－コース案内
－「受講生からのお便り」
（株式会社JAライフクリエイト福島）

◆Intertek Newsのバックナンバーは弊社ホームページでご覧頂けます。（http://ba.intertek-jpn.com/）❖ホームページをリニューアルしました!
発行 インターテック・サーティフィケーション株式会社 大阪事務所　◇本誌に関するお問い合わせは大阪事務所まで◇

― 移行準備に向けて ―

2015年版 リスク及び機会に関する一考察

品質/環境主任審査員　西垣 治郎

昨年9月にISO9001：2015、ISO14001：2015が発行されました。今号では、2015年版改訂の大きな変更点の一つである、『リスク及び機会』についてご紹介します。移行への準備にお役立ていただければ幸いです。（編集部）

はじめに

昨年、品質・環境とも2015年版規格が発行され、3年間の移行期限に向けて、規格の勉強やシステムの見直しを始められている企業も少なくないと思います。その中で、大きな変更点としてまず目にするのが『リスク及び機会』ではないでしょうか？これについて審査員の立場から見た一考察を述べたいと思います。

『リスク及び機会』の決定

新規格では、『リスク及び機会』を決定するにあたり、

①内部及び外部の課題

（4.1 組織及びその状況の理解）

②利害関係者とそのニーズ及び期待

（4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解）

を考慮するとあります（EMSでは、これに加えて“環境側面”や“順守義務”を考慮するとありますが、ここでは割愛）。さらに、JIS14001 附属書Aでは、内部・外部の課題の例が挙げられており、例えば次のようなものが考えられます。

【外部の課題】
地球温暖化、希少種の減少、環境関連法令の強化、天然資源の減少
為替の変動、工場の海外移転、競合他社の技術力向上、価格競争、労働力減少、嗜好の変化

【内部の課題】
特定顧客への売上依存、不良の増加、人材（リーダー）不足、離職問題、モラルの低下、技術の蓄積・継承

また、②の利害関係者のニーズと期待とは、顧客やコミュニティ、規制当局、投資家等の要求事項や期待であり、個別業務の要求事項とは異なる、例えば建設業では“品質や安全性、順法性、減災”、製造業では“品質やコスト、アフターサービス、減災”などが考えられます。

上記から『リスク及び機会』を決定するわけですが、リスクアセスメントのような複雑なものを求めてはいません（勿論、構いませんが）。この後、決定するリスクへの取組み（目標や活動内容）を如何に経営に役立つ（事業プロセスとの統合）ものとし、企業の発展に資するものとするかが重要です。

クレームや不良の低減、省エネなど現状の問題点は勿論のこと、中長期的なビジョン（省人化・自動化、人材の採用・リーダーの育成、マーケティング、新規製品・サービスの開発、CSR活動など）も考慮すべき内容です。

『リスク及び機会』への取組みの例

リスク及び機会	取組み方針
顧客工場の海外移転による失注 少子化による車離れ、嗜好変化による需要減少 公共事業の減少	新規顧客開拓 新製品・サービスの開発
競合の技術力向上による失注 技術革新による製品の変化	新技術の習得、技術力の向上
競合の品質力向上による失注（品質向上による受注増） 競合との価格低下による失注（コスト低減による受注増） エネルギー消費に伴う地球温暖化	工程内不良低減 省人化・自動化
リーダーの不足による管理能力低下、不良増加 個人のスキルアップ、多能工化 提案力増加による満足度向上	人材採用 計画的な人材育成（キャリアプランの作成）

取組み姿勢

上表の課題やニーズは、今までの審査においてもトップインタビューで繰り返し言及されてきたものですが、従来の規格では目標や計画を策定する際、リスク等の考慮は要求事項ではなかったため、システムを長年運用しても同じ目標・活動を繰り返している、あるいは自ら管理（コントロール）できない目標を掲げているといった場面に度々遭遇しました。ここでは、運用する側も良い方策、打開策が見つからず仕方なく同じ活動を継続している例が大半でした。

これらの現状を改善するために、事業の方向性・戦略性を含めた『リスク及び機会』を決定し、それを基にした取り組みを実施していく、そうすれば自ずと事業プロセスとの統合が図られる、それが規格の意図するところではないでしょうか。

我々審査員は、トップインタビューや経営計画等を通じて各企業の『リスク及び機会』を認識し、それらが目標や活動等に取り込まれているか、事業運営に役立っているか、判断することが求められているものと考えます。

西垣 治郎 （にしがき じろう）
インターテック・サーティフィケーション品質/環境主任審査員。建設・機械専門。㈱ユニオン、㈱中部技術支援センターを経て現職。岐阜市在住。

ISO9001・14001移行審査申請手続きについて

2015年版でのISO9001／ISO14001審査を受審されるタイミングが決まりましたら、2015年版移行審査申請書、ギャップチェックリスト（受審規格：ISO9001／ISO14001）をご記入の上、（審査予定時期の約3ヶ月前を目安に）弊社東京営業部までFAXにてご提出をお願いいたします。

※移行審査申請書、ギャップチェックリストは、弊社ホームページの【認証企業様ページ】からダウンロードいただけます。

※弊社ホームページのリニューアル（2015.11月）に伴い、それ以前のID・パスワードはご使用いただけませんのでご注意ください。リニューアル以降に会員登録いただいていないお客様は、お手数ですが、ホームページの【認証企業様ページ】→［新規会員登録］画面より、ID・パスワードの設定をお願いいたします。会員登録に関するお問い合わせは大阪事務所までお願いいたします。

- 移行審査申請書・ギャップチェックリスト送付先 ▷ FAX：03-3669-7410
- 移行に関するお問合せ ▷ 東京事務所QMS/EMS各認証部（TEL：03-3669-7408）、または各地区営業担当
- 移行審査申請書類のダウンロード ▷ 弊社HP: http://ba.intertek-jpn.com/news/規格改定のお知らせ/
- 会員登録等ホームページに関するお問合せ ▷ 大阪事務所（TEL：06-6150-0571／Emal：info.ba-osaka@intertek.com）

中田製作所様「中小企業庁長官賞」受賞

株式会社中田製作所様（大阪市淀川区）は、1908年創業、1959年より冷間ロール成形事業に携わり、多くの新技術を開発されています。中でもFEM解析技術を確立、NC制御を導入した業界唯一のロール完全兼用ミル FFX Mill の開発によって、これまでに無い高性能管・ハイグレード管の生産を実現され、日々新技術の開発をされています。

今年4月、りそな中小企業振興財団と日刊工業新聞社が共催する第28回『中小企業優秀新技術・新製品賞』で、同社の回転式連続プレス加工法『ODF MILL』が中小企業庁長官賞を受賞されました。受賞式では来賓の中小企業庁豊永厚志長官が「新分野に果敢に挑戦する事業者の方々は産業活力の牽引車とも呼ぶべき貴重な存在だ」とエールを送られました。受賞者を代表し、中田製作所の中田充社長は「世の中にないモノの開発には熱い思いが必要だ。開発は現場から、開発は人、開発に終わりはない。引き続き技術開発に邁進する」と謝辞を述べられました。

中田製作所様は、2013年に内閣総理大臣表彰「ものづくり日本大賞」の優秀賞も受賞されており、今後の活動展開が益々期待されます。

ISO22301事業継続マネジメントシステム（BCMS）の認証サービス

地震、水害、火災、サイバー攻撃、テロなど、私達は、あらゆるリスクにさらされています。ISO22301では、「まさか、こんなことが…」という事態が起こらないようにするため、発生の影響を最小限にとどめるため、そして、事後の復旧を迅速に実施するために先を見越して積極的に手を打つというプロアクティブな活動に取り組んでいきます。リスクアセスメントに基づき事業継続計画を作成し、演習を通じてより有効な活動になるよう改善していくことで更に体制を強化することができます。

他の規格と同様で、認証する組織の業種や規模は問いません。今後益々ニーズが高まると予測され、事業を継続するリスクについて考える絶好の機会となるでしょう。自社の製品・サービスの提供が滞った際のリスクの大きさ、社会的影響などを鑑みると取り組みへの必要性が見出せるかもしれません。認証サービスも可能ですので、どうぞお気軽にお問合せ下さい。

ISO45001の発行遅延

労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）は、ISO45001としてISO化が進められています。ISO45001のDIS（国際原案）に対するメンバー各国による賛否投票が実施され、賛成多数ながら、反対票が承認基準を上回ったため、DISは否決されました。

・DIS投票結果：賛成：71%、反対28%
（承認基準；賛成2/3=66.66%以上、かつ反対1/4=25%以下）

今後の予定は、2016年6月5日～10日のトロント会議後に明確になる予定ですが、DISの再作成・投票の期間を考慮すると、今年内のISO45001発行は難しく、発行は来年になる可能性が高いと考えます。（2016年6月初時点での情報）

■■■ 現地レポート ■■■

「熊本地震」から2ヶ月

九州エリアマネージャー　洲上 元司

未曽有の被害をもたらした「熊本地震」は、4月14日の「前震」と16日の「本震」で震度7の激震を2度も発生させ、その後も長期にわたり余震が続くという、これまでに例のない、まさに前代未聞の震災となりました。この地震で多くの尊い命が犠牲になり、大勢の方の生活の場が失われました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

インターテック・サーティフィケーションでは、熊本県全域と大分県の被害があった地域のお客様を訪問し、お見舞いや審査日のご相談などさせていただいております。お客様からは、社屋や設備の被害、長期におよぶ生産活動の停止、従業員の皆様のご自宅の倒壊、不自由な避難所生活や地震発生から2週間は熟睡できなかったお話など、大変お気の毒で深刻なお話をお聞きしています。また、車中泊の厳しい生活環境にもかかわらず、休みなく災害復旧工事に取り組まれているなど、復興に向け勇気をいただけるお話もいただきました。

これからも、お客様とご一緒に、復旧までの長く険しい道のりを歩んでまいります。

被災地支援への取り組み－高木包装様（奈良県葛城市）、救援物資をお届け

地震発生1週間後の4月21日、奈良県葛城市の株式会社高木包装様は、同社がある葛城市と協力し、被災した熊本県宇土市へ支援物資を送付されました。「少しでも役に立ちたい」との思いからいち早く支援を申し出られ、今年3月に東京の介護用品メーカーと共同開発された段ボール製の簡易トイレ1000個と取替え袋、そして葛城市が提供したブルーシート、アルファ化米などを同社の4tトラックで直接届けられました。

昨年創業60年を迎えられた高木包装様は、『心のかようパッケージ』作りをモットーに、環境に配慮した一貫生産システムを確立し、安心・安全な製品づくりに取り組まれています。また、地域行事への参加や清掃活動など地域活動や社会貢献活動も積極的に行われています。

高木包装様をはじめ、被災地支援にご尽力されている方々に敬意を表しますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

甲子園からの搬出作業風景

お客様紹介

平戸梱包運送株式会社・株式会社ヒカリ引越センター 様

（ISO9001：2008 認証登録）

〔取材者〕 審査員 **美濃 英雄** *Hideo Mino*

平戸梱包運送様は、昭和16年、東海道本線終点の神戸駅横で創業されました。貨物列車が着いたら荷車に積み替えて馬が引っ張っていった時代です。

1999年、ISO9002：1994から認証取得されています。今年の現場審査は選抜高校野球の甲子園球場でした。同社は兵庫県内校吹奏楽部などの楽器運搬依頼を多く受けられています。審査当日、準々決勝第2試合での兵庫県代表明石商吹奏楽部の試合後の積込み、運搬を見る為、試合終了に合わせて甲子園へ行ったところ、11回迄延長になっており、満員となっていた無料の外野席で試合終了を待ちながら同社社長様とカレーの立ち食いで昼食をすませました。試合終了後、ドライバーは慣れた動作で高校生と協力して、大切な楽器を積込まれていました。

連載よみもの

審査員の心理

第19回（環境編）

「法的及びその他の要求事項」(3)

環境主任審査員 **大村 敏夫** *Toshio Omura*

規格では、「法的及びその他の要求事項」と法的要求事項に加えて「その他の要求事項」も特定することが要求されていますが、「その他の要求事項」が認識されていない例を見かけます。「その他の要求事項」には多くのものが含まれ、地域協定、近隣との約束ごと、顧客からの要求等などが挙げられます。例えば、オフィスビルなどから出る廃棄物はビルの管理会社が管理している場合があり、その場合は廃掃法に基づく委託は管理会社が実施していますので、組織としてはビル管理会社のルールが「その他の要求事項」に該当するという捉え方もできます。この場合でも、ビル管理会社が適切な管理を行っていることを確認するために、廃掃法の要求事項は認識していると良いでしょう。

別の例としては、顧客のサイトに出向くことが多い場合は、顧客のサイトでのルールなども「その他の要求事項」と考えられます。規格の本文には「組織が同意するその他の要求事項」と、組織の同意が前提条件となっていますので、同意できない要求事項があった場合は、コミュニケーションを図り解決しておくことが望まれます。2015年版の規格では、「順守義務」という表現になっています。ここでの「順守義務」の定義(3.2.9)では、「組織が順守することを選んだその他の要求事項」も含まれるとされています。2004年版規格 4.4.3 コミュニケーション では、「著しい環境側面について外部コミュニケーションを行うかどうかを決定し」と、情報公開をするか、しないかの判断を要求していますが、その判断の結果として、実施すると決めた場合は「順守義務」になると考えられます。

法律については改正される場合があり、改正動向をフォローするのに皆さん苦労されています。大きな組織では、法務担当部門があり官報をチェックしていることもありますが、そこまでの余裕のある組織は僅かでしょう。特に大きな影響を受ける法改正については、規制当局などから通知や説明会の開催などで伝達されることもあるでしょう。その他、特定の業種に関係する法律については、業界紙なども情報源になるかと思います。さらに、法改正の情報サービス（有料、無料）から情報を入手することもできます。IntertekのWeb Siteでも「認証企業様ページ」にて、「環境関連法規制改正動向」という情報を提供しています。これらの情報は、多くの組織に共通して関係すると思われるものが掲載されますので、それぞれの組織にて、該当の有無、組織としてどのように対応しなければならないかの判断は必要です。

審査員リレーエッセイ㊿

審査員からのエッセイをお楽しみください。

From
神奈川県藤沢市
筒井 清美
（つつい　きよみ）

Profile
専門分野：ISO14001－電気・電子、機械・機器
経　　歴：松下冷機 藤沢工場、インターテック審査員（現職）

「『爆買い』に思うこと」

審査先の前泊のホテルで中国人観光客に会うことが最近多くなり、炊飯器や洗浄便座、薬や化粧品など抱えた「爆買い」ツアー客ですが、この「爆買い」は、日本製の品質と安心安全、日本人と同じものを使いたいとの心理によると言われています。私が十数年前、中国で扇風機を買い求め支払い後、急に店員が開梱、組立、起動させ、売場で品質確認したのです。これには驚き、徹底した顧客へのサービスと言えなくもないのですが、中国では当り前のことだったのです。今では日本の家電を凌駕する勢いの中国製品ですが、当分「爆買い」は続くことでしょう。

連載「環境とISO14001」㊿

「ESG投資の動向」

環境主任審査員　郷古 宣昭　Nobuaki Goko

近年、日本企業のCSR(社会的責任)活動を取り巻く状況が大きく変わりつつあります。すべての企業はそれを認識し、自社の中長期戦略に反映させる必要があります。

1. 国連責任投資原則

国連環境計画(UNEP)の金融イニシアティブと国連グローバル・コンパクトは共同で「国連責任投資原則」を発表しました。その中で、機関投資家は「もの言う株主」として投資先に対してESG(環境・社会的責任・企業統治)課題の実践を促す働きかけを行うことを投資家自ら宣言しています。具体的には、付表に示す6項目のコミットメントが記載されていて、これに賛同する機関投資家の署名を求めています。2014年11月に欧州連合が会計指令を改訂し、環境・労働・人権・腐敗防止に関して開示を義務化したことも後押しして署名機関は徐々に増え、2015年末時点で1400件を超えています。

2. 日本版スチュワードシップ

一方、2014年2月には日本の金融庁も「日本版スチュワードシップ・コード」を発表し、機関投資家に「スチュワードシップ責任を果たすための明確な方針を持つべきである」等、機関投資家のあるべき姿を示しています。スチュワードとは執事や財産管理人を意味していますが、スチュワードシップはキリスト教に由来し、「神から委ねられた恵みを責任を持って管理する」という考え方があります。スチュワードシップ・コードの原則に、投資先企業の状況を把握する内容として、「環境・社会・企業統治課題を含むリスク」が記載されていますが、上記の国連責任投資原則のようなコミットメントはなく、ガイドラインに留まっています。国連責任投資原則に署名した日本の投資機関は37件だけですが、日本版スチュワードシップ・コードへの署名機関は200件を超えています。

3. 日本の年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)のインパクト

世界最大の運用資産(140兆円)を有する日本の年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が2015年9月に国連責任投資原則に署名しました。運用資産は共済組合基金を含めると、200兆円に達し、その25%(50兆円)が国内株式の投資に回ることになります。この金額の全額ではないにしても、巨額な資金が、持続可能な社会の実現に不可欠なESG課題に取り組む企業に選別投入され、それらの企業の長期的な価値創造に向けて機関投資家の関与が入ることになります。影響は大きいと言わざるを得ません。冒頭に述べたように、すべての企業は自社の長期戦略及び自社のESG課題に対する取り組みを見直すことが重要と思います。

次回は、ESG課題の具体例に言及するとともに、これと関連がある財務／非財務統合報告の動向について解説します。

付表
国連責任投資原則（UNPRI）

機関投資家が従う原則
（私たち、機関投資家は）

1. 投資分析と意思決定プロセスにESG課題を組み込みます。
2. 「物言う株主」となり、資産運用の方針と実践にESG課題を組み込みます。
3. 投資先に対してESG課題の適切な開示を求めます。
4. 資産運用業界に本原則の実行を働きかけます。
5. 本原則の効果を高めるために共に行動します。
6. 本原則の実行・進捗の情報を公開します。

国内最大規模を誇る亜鉛製錬所

秋田製錬株式会社（ISO9001:2008認証登録）　環境安全部　**小熊 政彦**

当社は、秋田市の臨海工業地区に位置し設立45年を迎える会社です。ISO9001を2004年、ISO14001を2005年に認証取得し、国内ではJISマーク表示制度の認証を受け、全世界に「高品質の電気亜鉛」を供給しています。

電気亜鉛生産量は、年間21万トンと国内最大規模を誇るとともに安全と品質の両立を実現しています。また、他工場では廃棄物とされる亜鉛を製錬したあとの残渣を原料として、ヘマタイト法と呼ばれる独自の技術により、有価金属を極限まで回収し廃棄物を出さない「みどりの製錬所」として地域環境に配慮しながら共生しています。

当社は、社員一人ひとりが仕事のプロとなり、「安全に楽に仕事ができる」「より効率的な仕事ができるように改善する」「個々の問題解決能力を向上させる」を掲げ≪人財育成≫に取り組んできました。最近のトピックスは、日本科学技術連盟主催のQCサークル活動において「2015年度秋田県知事賞」を受賞し、大きな励みになりました。

今後、更なる飛躍の実現により地域社会の発展と全世界の亜鉛ユーザーへ貢献していきます。

秋田製錬全景（秋田市）

小豆島から世界に

かどや製油株式会社 小豆島工場（ISO22000:2005/TS22002-1:2009認証登録）　研究部 品質管理課　**関 圭吾**

かどや製油株式会社は、「お客様につねに感謝の心をもち、安心・安全かつ価値あるごま製品を提供することで、健康でより豊かな食生活に貢献する」という経営理念に基づき、ごま油やいりごま、すりごま等の食品ごまを製造販売している企業です。

安政5年（1858年）に香川県の小豆島で創業し、以来150年以上にわたり、当地で製造を続けています。2000年にISO9002を取得し（2003年にISO9001に移行）、2015年9月にはさらなる食品安全を目指すため、一年以上の準備期間を経てFSSC22000の認証を小豆島工場で取得しました。現在、安全・安心なごま製品を日本全国ならびに世界に向けて供給できるよう、構築した食品安全マネジメントシステムの運用、継続的な改善活動に日々取り組んでいます。

当社工場の所在地である小豆島は、壷井栄原作「二十四の瞳」や手延べそうめんで有名ですが、他の地方同様に少子高齢化が進行しています。その一方で、選手17人の小豆島高校野球部が、第88回選抜高校野球大会に21世紀枠で初出場を果たし、島民に感動を与えてくれました。

瀬戸内海の小さな島から、我々も安心・安全で風味豊かなごま製品を提供することで豊かな食生活に貢献するとともに、感動を発信していきたいと考えます。

かどや製油 小豆島工場全景（香川県小豆郡）

▶http://www.kadoya.com/

INFORMATION ＝弊社ホームページの認証企業様ページの閲覧用ID等に関するお知らせ＝

昨年11月に弊社ホームページをリニューアルいたしました。（新URL：http://ba.intertek-jpn.com/）
リニューアルに伴い、旧サイトでご使用いただいておりました［認証企業様ページ］へのログイン用ID・パスワードはご利用いただけなくなっておりますので、再度ご案内させていただきます。

新サイトでは、お客様ご自身でID・パスワードを設定いただく形になっております。リニューアル後［認証企業様ページ］へのログイン用ID・パスワードを設定いただいてないお客様は、お手数ですが、［認証企業様ページ］より新規会員登録をお願いいたします。

◆新規会員登録◆
弊社ホームページ［認証企業様ページ］ 新規会員登録サイト　http://ba.intertek-jpn.com/mypage/login/

❖［認証企業様ページ］では、2015年版移行審査申請書類の他、各種届出書類もダウンロードいただけます。必要に応じて所定の書類にご記入いただき、Faxにてご提出をお願いいたします。

－2015年版（ISO9001/ISO14001）移行審査を申請する場合 ▶▶▶「移行審査申請書」「ギャップチェックリスト」
－組織名、住所、担当者、連絡先等に変更が生じた場合 ▶▶▶「会社情報変更届」
－対象人員・事業所、認証登録範囲等に変更が生じた場合 ▶▶▶「認証条件変更審査見積依頼書」

❖会員登録を含め、ホームページに関するご質問、ご不明な点等ありましたら、弊社大阪事務所までお問合せください。
大阪事務所 Tel：06-6150-0571／Email：info.ba-osaka@intertek.com

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース
  9001／14001／18001／27001／39001　（2日間）

開催地 東京・大阪・名古屋・浜松・富山・金沢・新潟・福井・他

対象者
- 品質／環境／労働安全衛生／情報セキュリティ／道路交通安全マネジメントシステムの導入を予定／検討している
- システムをより効果的に運用したい
- 効果的な内部監査を行いたい

移行対応セミナー

ISO9001：2015、ISO14001：2015年版へのスムーズな移行に向けて、規格要求事項の考え方、各条項の詳細内容と解釈、重要ポイントなど、演習を交えて分かりやすく解説します。モデルケースの解説を元に具体的な対応策をご理解頂けるような内容になっています。

- ISO9001：2015　移行対応セミナー　（1日間）
- ISO14001：2015 移行対応セミナー　（1日間）

開催地 東京・大阪・仙台・青森・他

対象者
- ISO9001：2008／ISO14001：2004を既に運用している
- 管理責任者、内部監査員（中～上級者向け）

＊弊社ホームページよりお申込み頂けます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

ISO9001：2015 内部監査員研修コースを受講して

品質内部監査員コース（2016年3月東京会場）受講

株式会社JAライフクリエイト福島
食品事業部 食品企画課　渡邉 将英

当社は、農協を通じて農家組合員の方々へ食材宅配など生活に係る事業全般を行っている会社です。

今回、ISOに対する知識の習得と社内の内部監査員の業務対応の為に、「ISO9001：2015内部監査員研修コース」を受講させていただきました。初心者のため、内容を理解できるか受講前は不安でしたが、聞きなれない用語などについても、講師の分かりやすく丁寧な説明により理解することができました。実際に内部監査についての実施演習もあり、内部監査員についての業務や手法について具体的に講師のアドバイスも受けることができ有意義な研修でした。

今回の研修で学んだことを生かして、社内での内部監査員の役割を果たして農家組合員の更なる顧客満足アップを図るため、マネジメントシステムの運用を行っていきたいと思います。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　http://ba.intertek-jpn.com/　◆ HPをリニューアルしました ◆
東京事務所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル　TEL：(03)3669-7408　FAX：(03)3669-7410　E-mail：info.ba-japan@intertek.com
大阪事務所 〒532-0003 大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F　TEL：(06)6150-0571　FAX：(06)6150-0575　E-mail：info.ba-osaka@intertek.com